

シーケンサの最新動向

要 旨

シーケンサは、リレー制御盤の置き換えから始まり、現在では、FAに必要な不可欠なコントローラ、さらにはFA以外へも適用可能なコントローラとして広く普及している。

一方、市場の要求は“製造の自動化”から“システム全体の効率化・標準化”へ大きく変化しており、シーケンサもその環境変化に対応していく必要がある。

(1) 制御装置のコストダウンと付加価値向上

- 省スペース化によるスペースの有効活用と費用削減
- 省配線化による配線費用やメンテナンス費用の削減
- シーケンサの高性能化による装置の付加価値向上
- オープン化・グローバル化対応による装置の競争力向上

MELSEC-Qシリーズでは、最新技術を駆使してこれらの要求に対応可能とした。

(2) 柔軟で拡張性のあるシステム構築

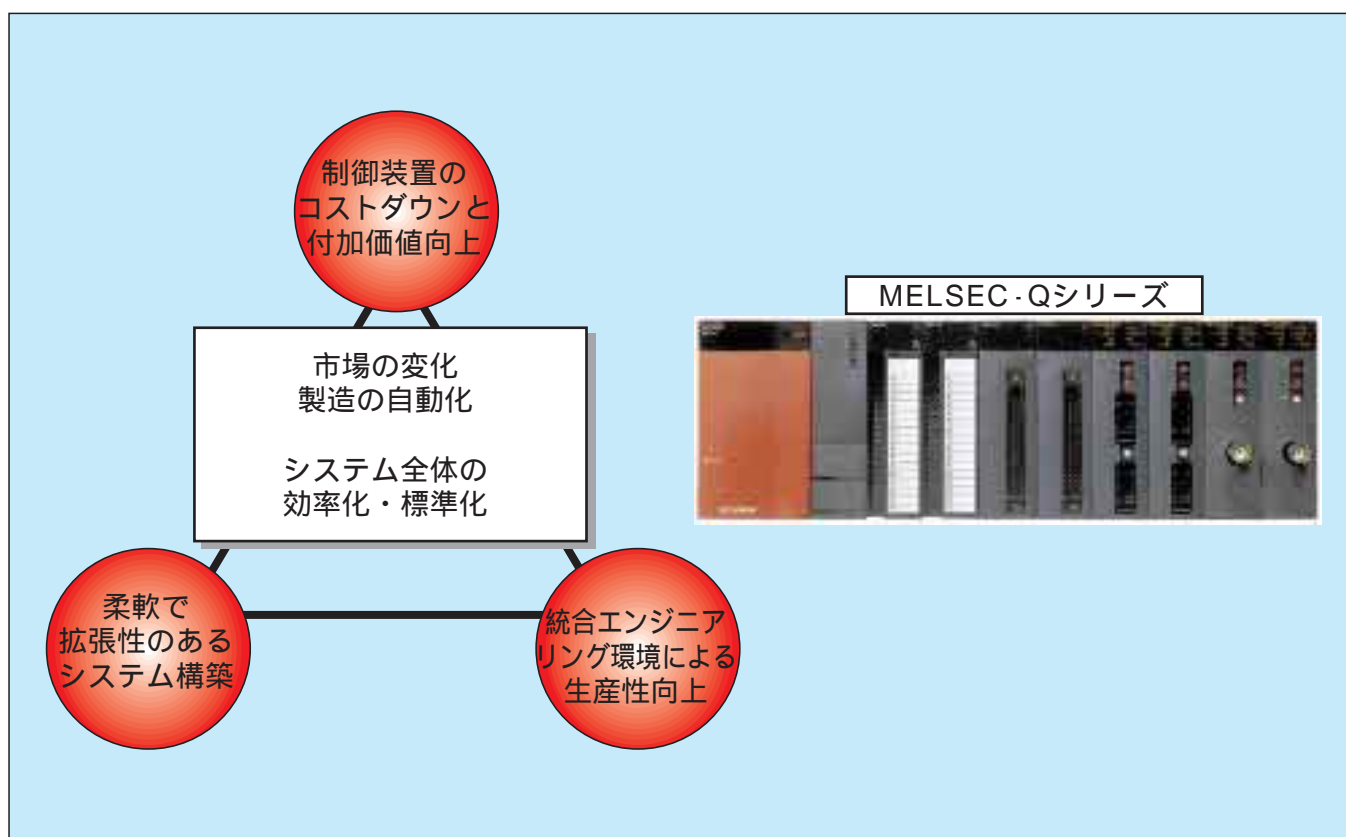
- ネットワークのオープン化による自由な機器の選択
- システムの柔軟な構築と容易な拡張
- 装置の海外展開，リモートメンテナンスによる費用の削減

MELSECNET / 10, CC-Linkの製品強化とオープン化, Ethernetの活用によって柔軟で拡張性のあるシステム構築を可能とした。

(3) 統合エンジニアリング環境による生産性向上

- 操作時間の短縮
- 関連機器を含めたシステム全体の生産性向上
- システムに最適なソフトウェア開発環境の選択

Windows環境を活用し、プログラミングツール(GPPWin)を核とする各種ソフトウェアの展開を行い、システム全体の生産性向上を可能とした。



シーケンサの最新動向

“製造の自動化”から“システム全体の効率化・標準化”へ市場の要求が変化する中、制御装置のコストダウンと付加価値向上、柔軟で拡張性のあるシステム構築、統合エンジニアリング環境による生産性向上が望まれている。三菱電機は、MELSEC-Qシリーズを核として、最新技術を駆使しながらそれらの要望に対応可能とした。